



いまだからこそ！ 乾癬の外用療法を考える

日時 2017年 **6月2日**(金) **16:30 ▶ 17:20**

会場 **仙台国際センター 第11会場**(会議棟3F 白樫1)

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地 TEL:022-265-2211

座長

熊本大学大学院生命科学研究部
皮膚病態治療再建学分野 教授

尹 浩信 先生

信州大学医学部皮膚科学教室 教授

奥山 隆平 先生

演者

京都大学大学院医学研究科皮膚科学 講師

本田 哲也 先生

「乾癬の免疫学的病態：最近のトピックス」

東京女子医科大学皮膚科学教室 准教授

常深 祐一郎 先生

「外用療法は乾癬治療の基礎」



第116回日本皮膚科学会総会イブニングセミナー7 いまだからこそ！乾癬の外用療法を考える

乾癬の免疫学的病態 ：最近のトピックス

生物学的製剤の登場により、乾癬の治療及び病態形成メカニズムの理解は近年劇的に進歩した。現在乾癬はTNF-alpha、IL-23、IL-17を軸として発症する病態と理解され、実際これらをターゲットとした治療は優れた効果を発揮し、乾癬はもはや克服された病気となった感もある。しかし、これらの治療法は基本的には対症療法であり、治療を中止すれば再発は免れないこと、またこれらの治療に反応が乏しい症例も存在することなど、未だ乾癬病態において解明すべき点は多く残されている。本講演では、乾癬病態形成メカニズムにおける最近の世界の研究の動向、特に免疫学的病態についての研究の進歩について概説する。



京都大学大学院医学研究科皮膚科学 講師
本田 哲也 先生

略歴

- 平成 12 年 京都大学医学部卒業
- 平成 12 年 京都大学医学部附属病院皮膚科 研修医
- 平成 13 年 鳥根県立中央病院皮膚科
- 平成 14 年 大阪赤十字病院皮膚科
- 平成 15 年 京都大学大学院医学研究科神経細胞薬理学講座、皮膚科学講座(皮膚免疫における脂質メディエーターの研究)
- 平成 19 年 京都大学医学部附属病院皮膚科 助教(皮膚樹状細胞、制御性T細胞の研究)
- 平成 22 年 米国国立衛生研究所(NIH) visiting fellow(研究員)(生体イメージングによる皮膚免疫の研究)
- 平成 24 年 京都大学医学研究科 AKプロジェクト 特任准教授(乾癬病態の研究)
- 平成 27 年 京都大学医学部附属病院皮膚科 講師

専門領域

乾癬、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎

外用療法は乾癬治療の基礎

乾癬治療の進歩は目覚ましく新薬が次々と登場している。しかし、その基礎は皮膚科医が脈々と行ってきた外用療法である。外用療法を基礎に治療を組み立てることにより全身療法と併せた効果を高めることができる。また、全身療法の用量を減らせるため、全身療法の副作用や薬剤費の減少に貢献し、最終的には全身療法の寿命を延ばすことになる。外用療法ではステロイド外用薬とビタミンD3外用薬が2本柱となり、両者の長所と短所を補うように相補的に使用する。単剤も配合剤も利用できる。さらに、ヘパリン類似物質などの保湿剤も重要であり、保湿により外用療法の効果が増すことは乾癬治療でもよく経験する。また、亜鉛華軟膏や親水クリームなどの古典的外用療法も現役である。剤型にも配慮し、アドヒアランスの向上を図る。外用量などの外用指導も忘れてはならない。これらは皮膚科医にしかできない伝統芸能である。



東京女子医科大学皮膚科学教室 准教授
常深 祐一郎 先生

略歴

- 平成 11 年 東京大学医学部医学科卒業
- 平成 11 年 東京大学医学部附属病院皮膚科 研修医
- 平成 12 年 国立国際医療センター皮膚科 研修医
- 平成 13 年 東京大学大学院医学系研究科学学位取得
- 平成 17 年 東京大学医学部皮膚科 医員、助手、助教
- 平成 22 年 東京女子医科大学皮膚科 講師
- 平成 26 年 東京女子医科大学皮膚科 准教授

専門領域

皮膚真菌症、乾癬、アトピー性皮膚炎、角化症、抗酸菌感染症、疥癬